

子どもたちが幸せに生きる熊本に！

熊本県議会議員 つつみ泰之活動報告

つつみ @ 通信



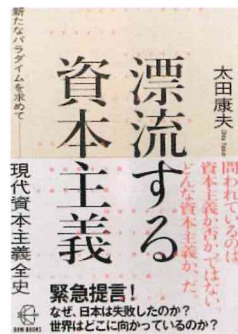
2月19日から定例県議会が始まります。今回の議会は景気対策を主とする2月度補正予算と木村県政初の本格編成となる令和7年度の予算審議の場となります。木村知事の「新時代共創」・「こどもまんなか熊本」の実現の為に政策とともに、TSMC関連への支出が際立ちます。政策審議会の中でJASM工場建設による税収効果について語られましたが、固定資産税収が入る市町村と違って半導体企業の特額の減価償却費で地方消費税等が抑えられることにより本格的に県の税収に寄与するのは6~7年後になるようです。暫くはインフラ整備、地下水保全に注力しながら厳しい財政運営が続きます。

【九州各県議会議員交流セミナー・陸上自衛隊霧島演習場検閲視察】

1月3回目となる宮崎出張！議員交流セミナーと第8後方支援連隊後援会の研修として霧島演習場へ日をまたいで行ってきました。宮崎観光ホテルでのセミナーでは「半導体産業を取り巻く潮流と九州」の演題で公益社団法人九州経済調査協会の発表がありました。JASM第3工場誘致を含め各県（特に福岡）の必死さを感じます。九州沖縄の防衛、防災の要としても熊本県は重要な地です！



書籍紹介



『漂流する資本主義』

太田康夫/著

日本経済新聞の元記者である著者が、時代とともに変化する『資本主義』を追いながら、格差が拡大した現代において『株主資本主義』の修正を目指す動きを追う。

本書紹介（目次より）

- ・モデルチェンジに失敗した日本
- ・株主資本主義の盛衰 強欲がもたらした格差の拡大
- ・新しい資本主義の模索 ゆがみの修正は可能か
- ・不都合な真実 アンглоサクソン人勝ちの誤算

今月の数字

九州の半導体産業の設備投資に伴う経済波及効果

23兆円(2021年~2030年)

熊本へのTSMC関連工場建設決定から10年間での九州における設備投資予想総額は8兆4千億円、生活活動関係の経済波及効果が14兆6千億円、合わせて23兆円強と推計されています。このうち九州地場企業由来の波及効果は1兆2千億円とされていますからいかに九州外、海外資本からの投資が大きいかがうかがえます。ビジネスチャンスとしてそのような企業とのマッチングをいかに各県が勝ち取るかに興味が注がれます。それと同時に県内企業が激しい競争の中で人材獲得や不動産の獲得に益々苦勞すると思われます。

製作者：つつみやすゆきプロフィール 1974年7月7日 熊本市中央区水前寺のツツミ薬局の5人兄弟の長男に生まれる。

【学校】託麻原小、帯山中、熊本学園大学付属高校、熊本YMCA学院建築科

【経歴】現場監督から建築設計事務所勤務を経て、福岡の不動産会社に勤務。平成18年に開業・現職

2022年5月の熊本県議会議員選挙熊本市第一選挙区補欠選挙にて20033票で初当選、2023年4月、10,789票で2期目当選

【資格】宅建士・宅建マイスター・不動産コンサルティングマスター・2級建築士・CFP（国際認定FP資格）・防災士